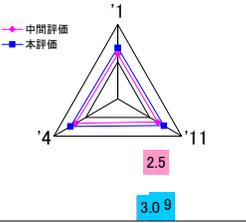


様式4 令和5年度新座市学校評価システム 課題報告書

学校名	新座市立新座小学校
実施日	令和 5 年 8 月 25 日

No.	質問項目	評価結果を踏まえた具体的な改善策		中間評価ポイント	評価 S/A/B/C
		中間評価	本評価	中間評価ポイント	評価 S/A/B/C
1	組織 学校は働き方改革を進めるため、校務分掌や教育課程等を適宜見直し、教職員の意識を高めるよう組織的に取り組んでいる。	中間評価	日課の工夫やICTの活用により時間外在校時間は短縮されているが、単発的な取組が多く組織的な取組に欠ける。より一層の校務の効率化を図り、教職員の役割と作業時間の割り当てを明確化して組織的に取り組めるようにする。	2.4	A
		本評価	ノー会議デーやノー残業デーを設けることとで、時間外在校時間が減り、教職員も負担軽減を実感できた。今後も教職員自らが働き方を意識しプライベートとのバランスを取って時間を有効利用できるよう教育課程を適宜見直す。	2.8	A
11	健康 学校は、体育や休み時間などを通じて、児童が意欲的に運動に親しむような取組を行い、体力向上に努めている。	中間評価	休み時間に外遊びを推奨する「青空タイム」の取組により運動場で活動する児童は多い。活動内容の充実を図る。体育の時間や体育朝会にて体力アップを目指し成長段階を加味した体づくり運動を体育主任・体育専科を中心に体系的に行う。	2.5	A
		本評価	持久走記録会キャンペーン等、体育部会を中心に体力向上に取り組むことができたので、継続して行う。学期に一つ重点目標を設定し、数値的な目標を持たせられる取組を体育部会に計画させる。	2.9	A
4	学力1 学校は、児童が学習内容の理解を深めることができるよう、児童が問いをもち、自らの考えを表現するといった児童主体の授業や活動を展開しようとしている。	中間評価	本校の研究課題でもあり、各教職員も意識を高め取り組んでいる。児童の実態に合わせ、主体的に活動できるよう外部指導者を招聘しての研修会、研究授業・研究協議会を通して学校全体で授業改善を図る。	2.7	A
		本評価	児童が問いをもち、自らの考えを表現できる場をもてるよう、異学年交流をしたことで児童の意欲が高まったので、今後も積極的に取り組む。校内研修で取り組んでいる「4CHモデル」を基盤として、児童が主体的に考えを交流させられるような活動を展開する。	3	A
総 評					
	中間評価	それぞれの項目において、教職員の意識も高くなり全体的に高い評価となっている。意欲的に取り組んではいるが、個人の取組となっており、クラス間、学年間に差がある。内容の充実をし、共通理解を図り、組織的に取り組めるようにする。また、それぞれの項目について、各校務分掌で目標達成のために具体的な策を講じる。真摯に取り組む姿勢はあるので、自発的に策をもてるように話し合う時間と場所を設定する。			
	本評価	全体的に数値が上がった。教職員がチームとなってどの場面でも取り組むことができた結果である。研究授業や外部講師を招聘しての研修に積極的に取り組み、授業改善にも取り組んでいた。ICTの有効活用については、学校全体で情報を共有し、どの学級でも同じように活用できるようにする。			